

緑のしるべ

～夏号～

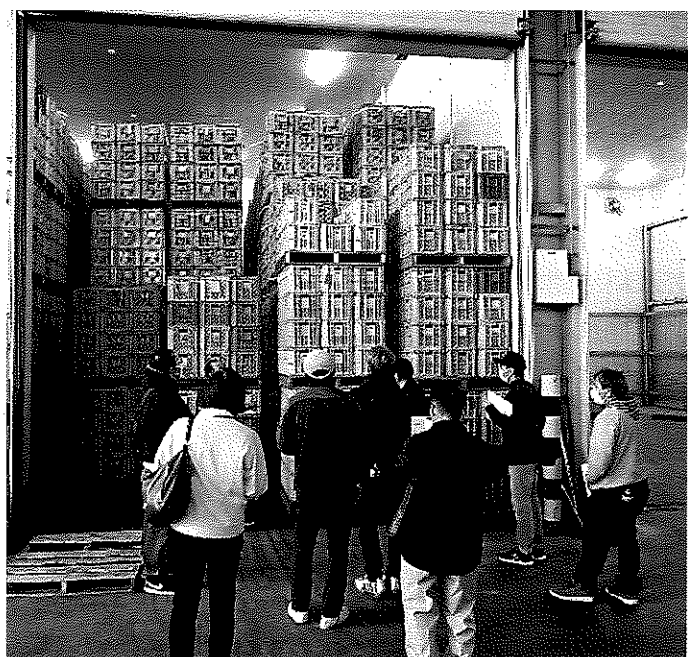
令和2年6月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター
稲敷市江戸崎甲541(稲敷合同庁舎内)
TEL 029(892)2934
FAX 029(892)6684

阿見町におけるかんしょ振興の取り組み



5/29 現地研修会 かんしょ植え付けの様子



キュアリング倉庫などを見学しました

阿見町では増加する遊休農地対策として畑作物の振興に力を入れています。近年では「常陸秋そば」の生産拡大に取り組み、令和元年は約70ha栽培されています。

さらに令和元年度からは茨城かんしょトップランナー産地拡大事業を活用し、輪作体系に「かんしょ」を推奨品目として位置づけ、新たな生産者の掘り起こし、産地形成に取り組みました。その結果、本年作付けでは、新規生産者6名を含む8名で約7haが作付けされる計画となりました。3月には栽培予定者、町、普及センターでかんしょの大産地であるJAなめがたしおさいを見学研修し、栽培意欲を高めました。

カメムシ防除について

令和元年産米の茨城県内作況指数は96と「やや不良」でした。その要因は、台風による影響も一部ありましたが、梅雨時期の低温・日照不足や梅雨明け後の高温による気象による影響と、斑点米カメムシ類（以下カメムシ）の発生が平年より多かったことも考えられます。カメムシは、暖冬で夏季も高温の年に発生が目立ち、水田、畦畔、休耕田、畑地などに生育する一年生イネ科雑草（スズメノカタビラ、メヒシバ、ノビエ、エノコログサなど）が発生の温床となっています。カメムシ防除を徹底して実施しましょう。

○カメムシの発生を低減させる畦畔雑草管理

草刈りや畦畔除草剤の散布により畦畔雑草を管理することで水田内に侵入する個体数を抑制し、斑点米被害を低減させます。ただし、雑草防除はイネの出穂10～15日前までとします。出穂直前後の防除はカメムシを強制的にイネへ追いやることになり、かえって被害が大きくなります。

○カメムシの薬剤防除適期

穂揃期 カメムシが水田へ侵入するピークで、成虫はすぐに産卵します。この時期に吸汁されると、斑点米にはならず「しいな」になり減収します。

乳熟期以降 穂揃期に侵入した成虫が産んだ卵から孵化した幼虫が水田内に生息します。この時期に吸汁されると斑点米が発生します。

粒剤・豆粒剤の利用

豆粒剤は畦畔から柄杓などを使って散布もでき、作業も簡単です。粒剤や豆粒剤は、水稻が成分を吸収し、その水稻をカメムシが吸汁することで効果を発現します。出穂7～10日後に湛水状態で散布します。

液剤・粉剤の利用

カメムシの発生が多い場合は、カメムシに薬剤がかかることで効果を発現する液剤や粉剤での防除が有効です。防除時期は穂揃期（8割から9割が出穂している時期）と、乳熟初期（出穂後10～15日頃）の2回防除です。

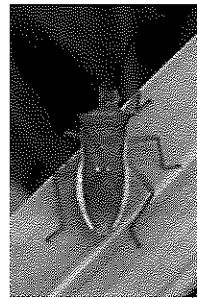
稲敷地域で見られる斑点米カメムシ類



イネカメムシ



クモヘリカメムシ



ホンハリカメムシ

薬剤散布の際は必ずラベルを見て、対象作物・希釈倍率や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようお願いいたします。

稲作・そば共進会で森川良男さんが最優秀賞を受賞しました

「令和元年度第63回茨城県稲作・そば共進会表彰式」が2月21日、ホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸で開催され、稲作の部で稲敷市の森川良男さんが最優秀賞及び農林水産大臣賞を受賞しました。森川さんは水稻自作および作業受託とレンコンの複合経営を行っています。水稻栽培では疎植栽培や有機入り基肥一発肥料により、省力化・低コスト化を図るとともに、作期分散や施肥同時田植え機の導入で作業の効率化にも取り組んでいます。所属するあずま有機米研究会では、化学肥料低減や農薬使用回数を低減した県特別栽培農産物など環境へ配慮した栽培にも取り組んでおり、米づくりを通じて地域に貢献しています。普及センターでは、あずま有機米研究会及び森川さんの更なる発展を支援してまいります。



増設したダイコン共同洗浄・選別施設が稼働を開始

J A水郷つくば大根生産部会は、平成24年のダイコン共同洗浄・選別施設導入を契機として、部会員、栽培面積ともに増加し、牛久市のブランド野菜「牛久河童大根」として成長してきました。

令和元年には茨城県青果物銘柄産地に指定され、主な出荷先の京浜市場からは品質の高さから一層の出荷拡大が望まれています。



こうしたことから、J A水郷つくばでは、需要に応じた生産・出荷体制を構築するため、ダイコン共同洗浄・選別施設を増築し、本年3月から稼働を開始しました。

この施設の稼働により、生産の拡大と安定した品質とロットが確保され、生産者の農業経営の向上と雇用の活用による地域の活性化が期待されます。

茨城県GAP第三者確認制度を紹介しす!

「GAP (Good Agricultural Practice)」は、生産する農産物の安全、生産環境・労働環境の向上、生産の効率化などに関する課題を見つけて改善することで、より良い農業経営を実現する取組みのことです。GAP認証には、国際水準の認証 (GLOBALG. A.P. 等) や、公的機関による第三者確認制度 (本県では茨城県GAP第三者確認制度) があります。

「茨城県GAP第三者確認制度」は審査費用が無料で審査項目が絞り込まれて取組みやすいため、令和2年4月現在で、33件の登録があります。稲敷地域では、JA稲敷江戸崎南瓜部会、JA稲敷蓮根部浮島支部GAP部、県立江戸崎総合高校が登録されており、内部検査や外部審査員による農場評価を実施し、経営改善に熱心に取り組んでいます。東京オリンピックの開催延期に伴い、この制度も令和3年9月まで延長されることになりました。興味がある方は、普及センターまでご相談ください。



農産加工品コンクール受賞商品を紹介



令和2年1月16日 (木)、令和元年度茨城県農産加工品コンクールにおいて、稲敷市浮島でレンコン栽培及び加工を行っている文江ファームの「ふみえさんちのおやつ レンコンチップ」が金賞を受賞しました。「レンコンチップ」は、黒沢文江さんが平成19年から販売を開始し、女性農業者の仲間からも好評で、「ぜひ販路拡大をしてみては」との意見を受け、令和元年度に「儲かる農業ステップアップ事業」を活用し、自身の似顔絵を用いてパッケージを一新した商品です。

浮島産レンコンの綺麗な白さを活かし、チップの色がきつね色になるよう丁寧に揚げています。稲敷市浮島のゴッドマザー RU 会直売所*と、ポケットファームどきどき牛久店にて販売しています。

*ゴッドマザー RU 会直売所 稲敷市浮島 4565-1 番地 (毎週土曜、10時から17時まで営業)
ゴッドマザー RU 会とは、稲敷市浮島地区の女性農業者グループです。

稲敷地域農業学園を開催します！

稲敷地域農業改良普及センターでは、農業を始め数年の方を対象に、栽培の基礎的な技術などを学ぶ農業学園を開催しています。同年代の農業者と情報交換・交流できる貴重な機会にもなりますので、ぜひご参加ください。

月	各講座内容(予定)
6	開講式(先輩農業者の講話)
8	気象災害対策講座 (ハウス管理等における台風対策)
10	農業資材 EXPO (農業資材及び機械に関する情報収集)
11	簿記講座
12	農業機械講座「機械メンテナンス」
1	県南地域合同プロジェクト発表会 (プロジェクト活動事例の発表聴講)
2	水稻講座(育苗管理の留意点)
	閉講式 (ほ場見学及び地域農業者との交流会)

【お問い合わせ先】

稲敷地域農業改良普及センター(担当:千ヶ崎)
電話:029-892-2934
FAX:029-892-6684

農業大学の紹介・学生募集

県立農業大学校では、高校等卒業者(若しくは見込者)を対象に農業部(農学科40名、畜産学科10名)、園芸部(園芸学科30名)の学生を募集します。一年生は全寮制で、二年生は希望入寮制となります。

また、農業大学校卒業者、短期大学等の卒業者(若しくは見込者)を対象として、研究科10名を募集します。

◆入学願書の受付期間

◎推薦入学(各学科)

令和2年9月30日～10月18日

◎一般入学・前期(各学科)

令和2年11月11日～12月6日

◎一般入学・後期(各学科)

令和3年2月3日～21日

◎研究科

令和2年11月11日～12月6日

◆問合せ先 県立農業大学校

電話:029-292-0010

FAX:029-292-0903

◆農大ホームページ

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/nodai/>
茨城県農業総合センターで検索

いばらき農業アカデミーのお知らせ

茨城県では、農業技術向上に意欲的な方や農業を志している方など、幅広い方を対象に「いばらき農業アカデミー」を開講しています。

今年度は30以上の講座を予定しており、目的に応じて自由に選択・受講することができます。

講座へのご参加、お待ちしております。

開設講座(一部抜粋)

- ・ヤングファーマーズ・ミーティング2020
- ・**新設**経営スタートアップ講座
- ・リーダー農業経営者育成講座
- ・女性農業経営者育成講座

講座は順次開講しています。
開講時期や内容、申し込み方法の詳細はホームページをご確認ください。



【お問い合わせ先】

いばらき農業アカデミー事務局
電話:029-945-8321
FAX:029-945-8350

<https://www.agriacademy.pref.ibaraki.jp/>

普及センター新体制

センター長 大澤浩司 (野菜経営)

【経営課】

課長 住谷敏夫 (作物経営)

係長 吉田茂紀 (庶務)

専門員 岩橋雅夫 (作物経営)

技師 千ヶ崎拓也 (アグリビジネス)

育休任用職員 佐藤由衣

【地域普及第一課】

課長 吉田健司 (野菜経営)

専門員 村崎幸枝 (野菜経営)

専門員 山邊あずさ (野菜経営)

主任 池田千亜紀 (作物経営)

技師 安田丈洋 (作物経営)

育休任用職員 鈴木実

会計年度任用職員 坂本敏光

【地域普及第二課】

課長 池田有弘 (花き経営)

主査 吉崎幸一 (野菜経営)

専門員 高安美保 (野菜経営)

専門員 遠藤千尋 (作物経営)

会計年度任用職員 稲垣陽平

どうぞよろしくお願いたします。